

2010年5月11日(火)

第1部 2009年度決算概要 及び 2010年度業績予想

副社長 木下幸雄

2009年度 業績サマリー

単位: 億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・全セグメントとも前年度比大幅減
- ・標準・量産機械は08/4Qを底に回復基調

(2) 売上高

- ・受注減少を反映し前年度比減少
- ・標準・量産機械は09/上を底に回復

(3) 営業利益

- ・前年度比半減するも、コスト削減効果により見込みより大幅改善

(4) 純利益

- ・特別損益の好転により前期並みの利益を確保

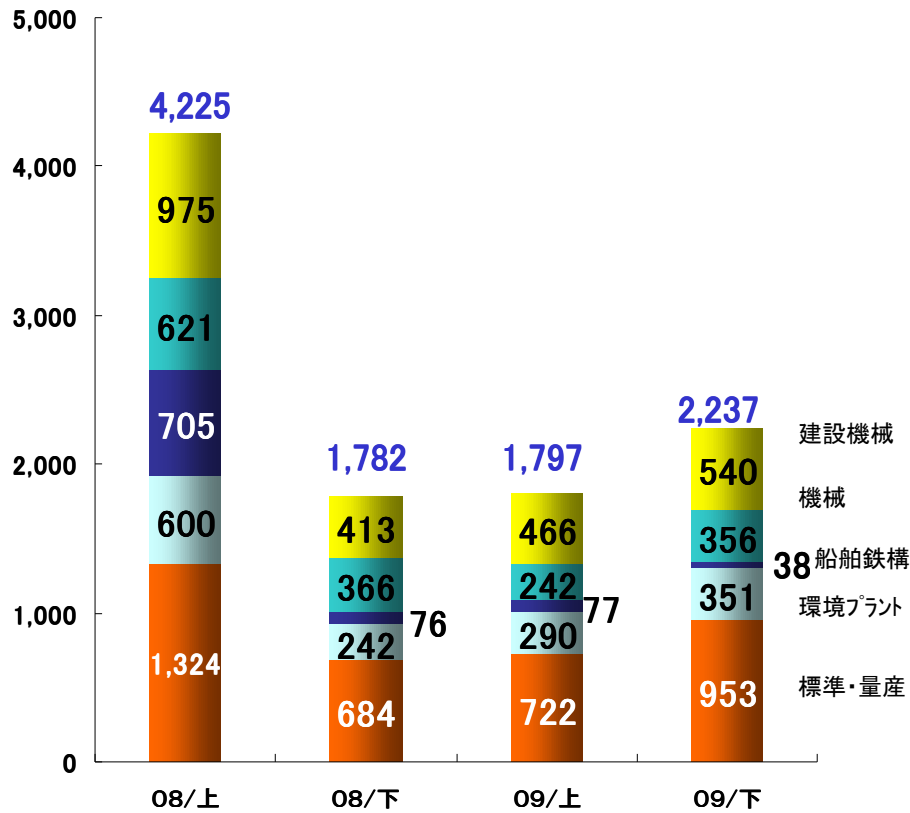
	2009	2008	増減
受注高	4,034	6,007	△1,972
売上高	5,162	6,429	△1,268
営業利益	283	569	△287
営業利益率	5.5%	8.9%	△3.4%
経常利益	263	503	△239
経常利益率	5.1%	7.8%	△2.7%
特別損益	△1	△165	165
税金等調整前 当期純利益	263	337	△75
当期純利益	133	136	△4
当期純利益率	2.6%	2.1%	0.5%

受注・売上 半期推移

単位: 億円

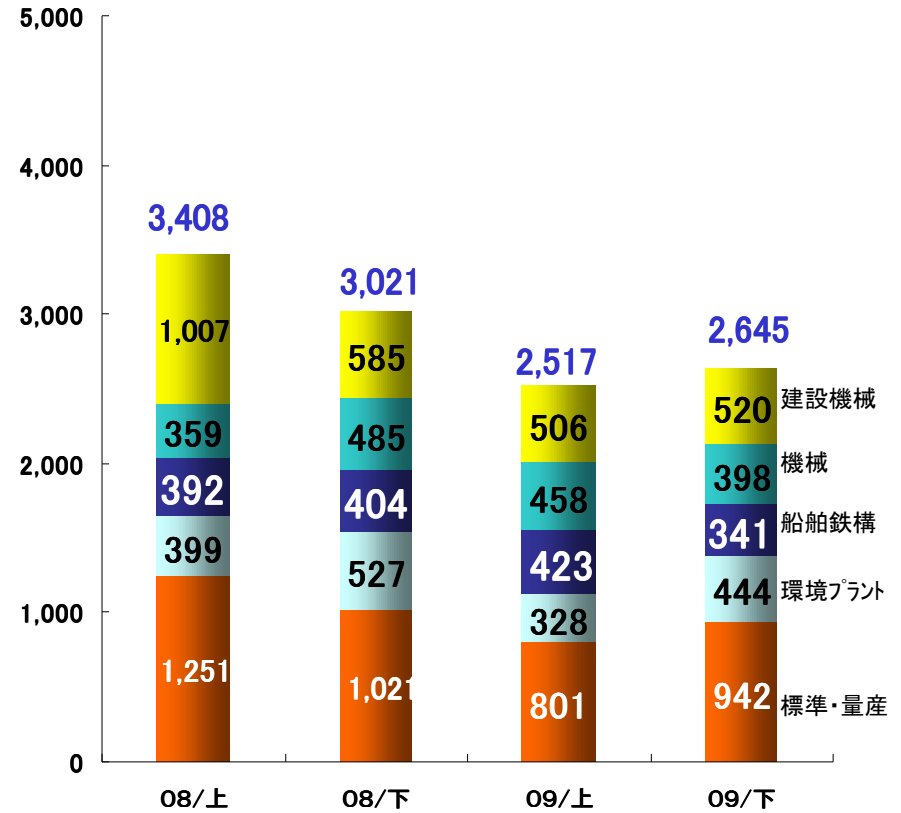
受注高

08/下を底に回復基調で推移、
09/下はさらに増加するも低水準



売上高

受注状況を反映し、徐々に回復



セグメント別営業利益

■ 対前年度比較

単位:億円

<標準・量産機械>

PTC、プチ機、精密その他ともに、売上減少により利益が悪化

<環境・プラントその他>

ボイラ、水処理とも売上減少により利益が悪化

<船舶鉄構・機器>

原材料価格の高騰や為替の影響により利益が減少

<機械>

タービン・ポンプは売上減少のため、利益が悪化するも、搬送機械、鍛造プレスは売上増等により利益が好転

<建設機械>

油圧ショベル、米国モバイルクレーンとも売上減少で利益が悪化

■ 対予想比較

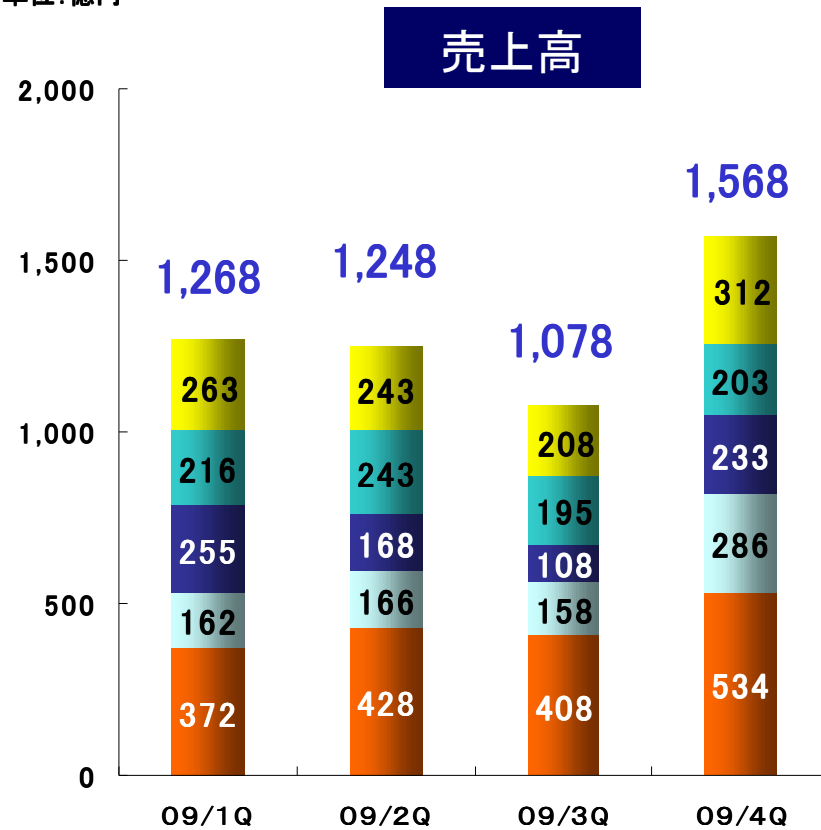
コストダウン努力により全セグメントにわたり大幅改善

	2009	2008	増減
標準・ 量産機械	△17	123	△140
環境・プラント その他	79	107	△28
船舶鉄構・ 機器	72	126	△54
機械	142	136	6
建設機械	6	75	△70
計	283	569	△287

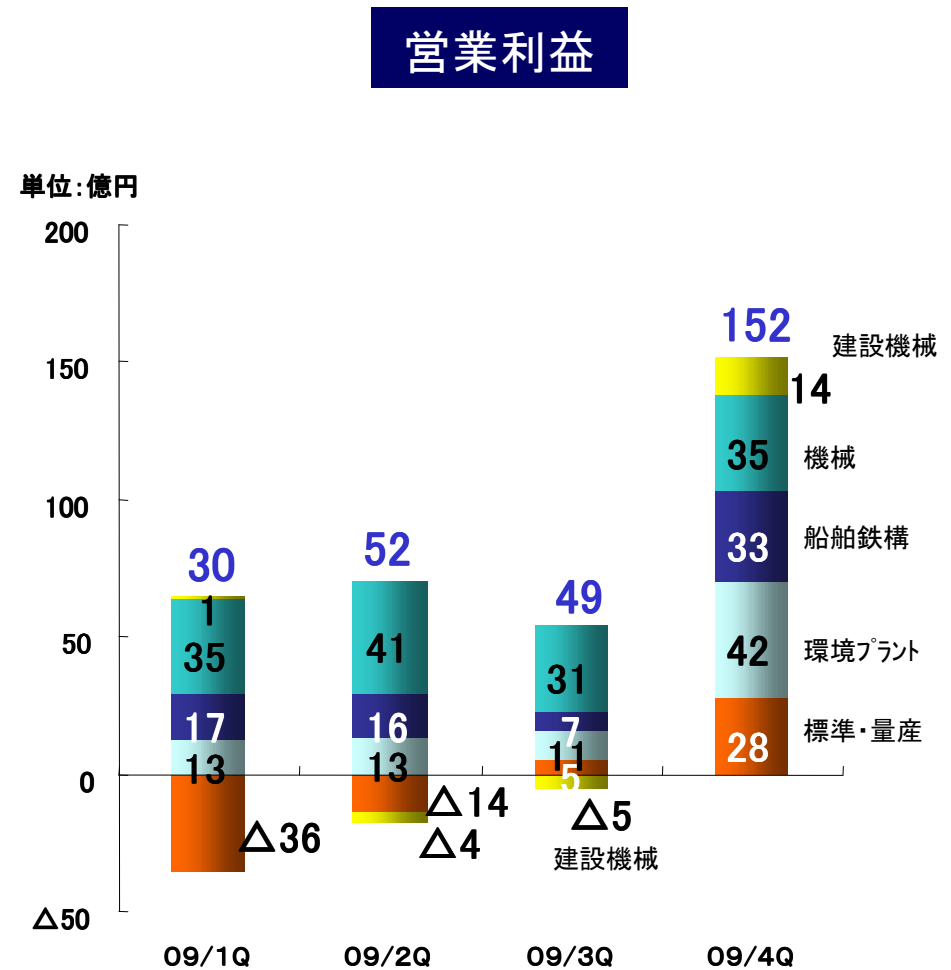
営業利益 四半期推移

標準・量産、建機は回復基調が鮮明に。
重機械系はコストダウン努力により改善。

単位: 億円



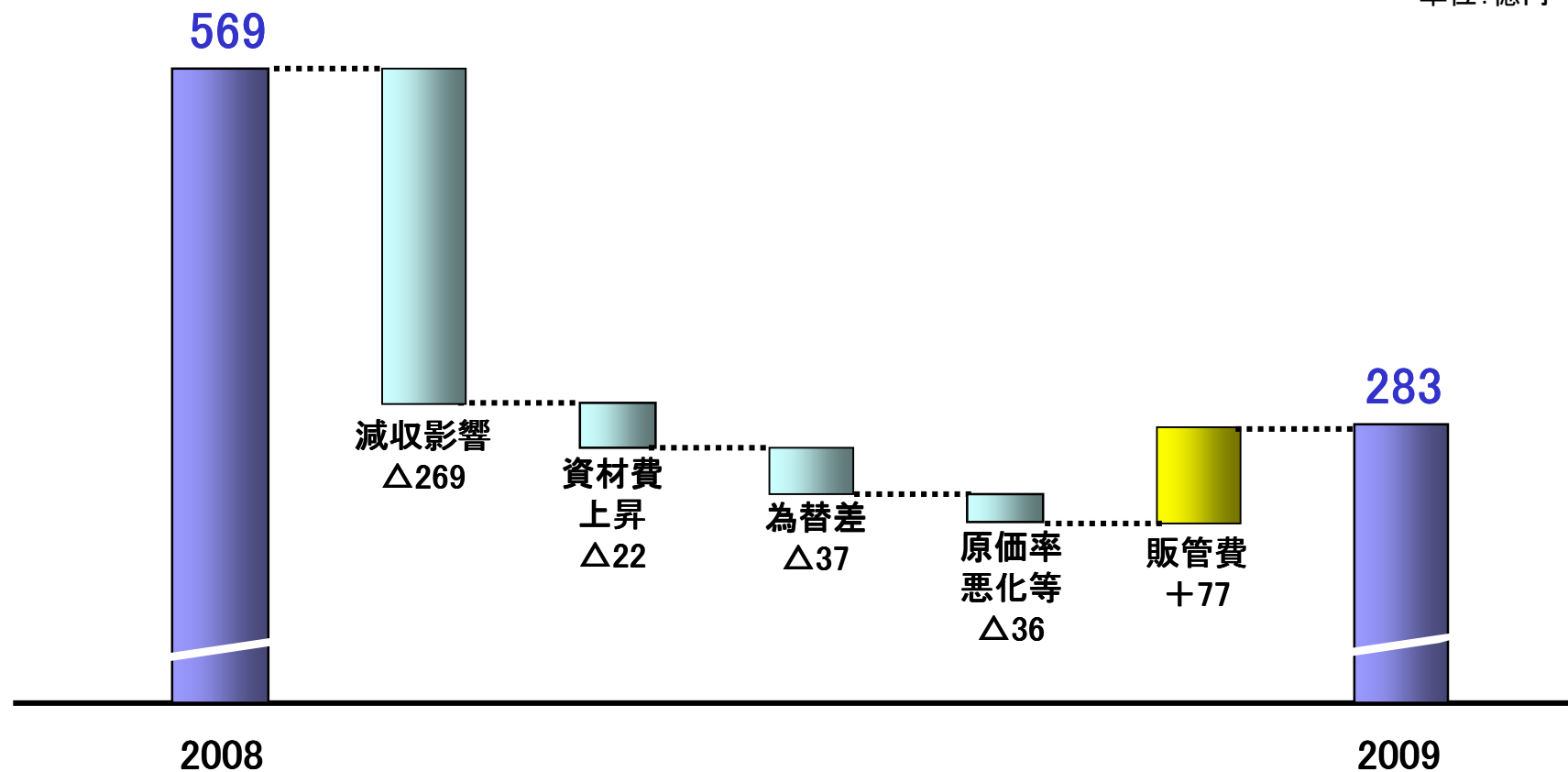
単位: 億円



營業利益增減分析(2008—2009年度)

1-5

單位: 億圓



連結貸借対照表

				単位: 億円			
	2010/3末	2009/3末	増減		2010/3末	2009/3末	増減
流動資産	3,398	3,803	△405	負債	3,559	4,187	△628
現預金	625	447	178	買掛債務	1,080	1,361	△281
売上債権	1,319	1,557	△238	前受金	410	500	△90
たな卸資産	1,234	1,494	△260	有利子負債	877	1,103	△227
その他	220	306	△86	その他	1,193	1,223	△30
固定資産	2,703	2,771	△68	純資産	2,542	2,387	155
有形固定資産	2,165	2,140	24	株主資本	2,118	1,986	132
無形固定資産	73	64	9	評価・換算差額等	324	300	24
投資その他の資産	465	567	△102	少数株主持分	99	101	△2
合計	6,101	6,574	△473	合計	6,101	6,574	△473
				ネット有利子負債 比率	4.1%	10.0%	
				自己資本比率	40.0%	34.8%	

連結キャッシュフロー計算書

区 分	単位:億円		
	2009	2008	増減
営業活動	575	347	228
利払い・償却前事業収益	468	691	△223
運転資本	143	△144	287
その他	△36	△201	165
投資活動	△140	△359	220
フリーキャッシュ・フロー	436	△12	448
財務活動	△267	156	△423
現金・現金同等物増減	171	126	45
現金・現金同等物期末残高	615	424	190

2010年度セグメント別業績予想

- ポイント (1) 受注は標準・量産、建機で2010年度から本格回復。環境、船舶、機械は厳しい状況継続。
 (2) 売上も受注に合わせ2010年度下期から本格回復。
 (3) 営業利益は標準・量産機械の黒字化により全セグメント黒字。

単位:億円

		2009下期 実績	2010上期 予想	2010下期 予想	2010年度 予想	2009年度 実績
標準・量産機 械	受注高	953	1,030	1,140	2,170	1,675
	売上高	942	925	1,125	2,050	1,742
	営業利益	33	20	85	105	△17
環境・プラント その他	受注高	351	265	365	630	640
	売上高	444	270	480	750	772
	営業利益	53	5	50	55	79
船舶鉄構・機 器	受注高	38	55	195	250	115
	売上高	341	335	425	760	765
	営業利益	40	25	65	90	72
機械	受注高	356	350	300	650	598
	売上高	398	350	330	680	856
	営業利益	66	45	25	70	142
建設機械	受注高	540	600	600	1,200	1,005
	売上高	520	570	590	1,160	1,027
	営業利益	9	15	25	40	6
合計	受注高	2,237	2,300	2,600	4,900	4,034
	売上高	2,645	2,450	2,950	5,400	5,162
	営業利益	200	110	250	360	283

2010年度業績予想

■ ポイント

- (1) 受注は標準・量産機械セグメントで2008年度レベルまで改善。
- (2) 売上は機械セグメントの落ち込みを標準・量産機械セグメントがカバーし2009年度より若干増。
- (3) 2009年は3円から4円に増配。2010年度は中間無配なるも年間で5円配当予定。

単位:億円

	2010上期予想	2010下期予想	2010年度予想	2009年度実績
受注高	2,300	2,600	4,900	4,034
売上高	2,450	2,950	5,400	5,162
営業利益	110	250	360	283
営業利益率	4.5%	8.5%	6.7%	5.5%
経常利益	85	235	320	263
経常利益率	3.5%	8.0%	5.9%	5.1%
特別損益	△15	△10	△25	△1
当期純利益	30	135	165	133
当期利益率	1.2%	4.6%	3.1%	2.6%
配当	0円	5円	5円	4円
配当性向			18.3%	18.2%
ROIC (税引後)			6.0%	4.8%
織込レート(ドル)			90円	95円

2010年5月11日(火)

第2部 経営戦略

社長 中村 吉伸

中期経営計画 現状認識

	グローバル21	現状認識
2010年度 目標	<ul style="list-style-type: none"> 売上高 8,500億円 営業利益 1,000億円 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当初の数値目標の実現は困難なるも、市況回復のチャンスをつ捉えて成長へ
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化 イノベーション 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グローバル化とイノベーションの方向は不変
投資方針 (3カ年)	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資1,000億円 研究開発費500億円 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務規律を維持しつつ、成長への投資を再開

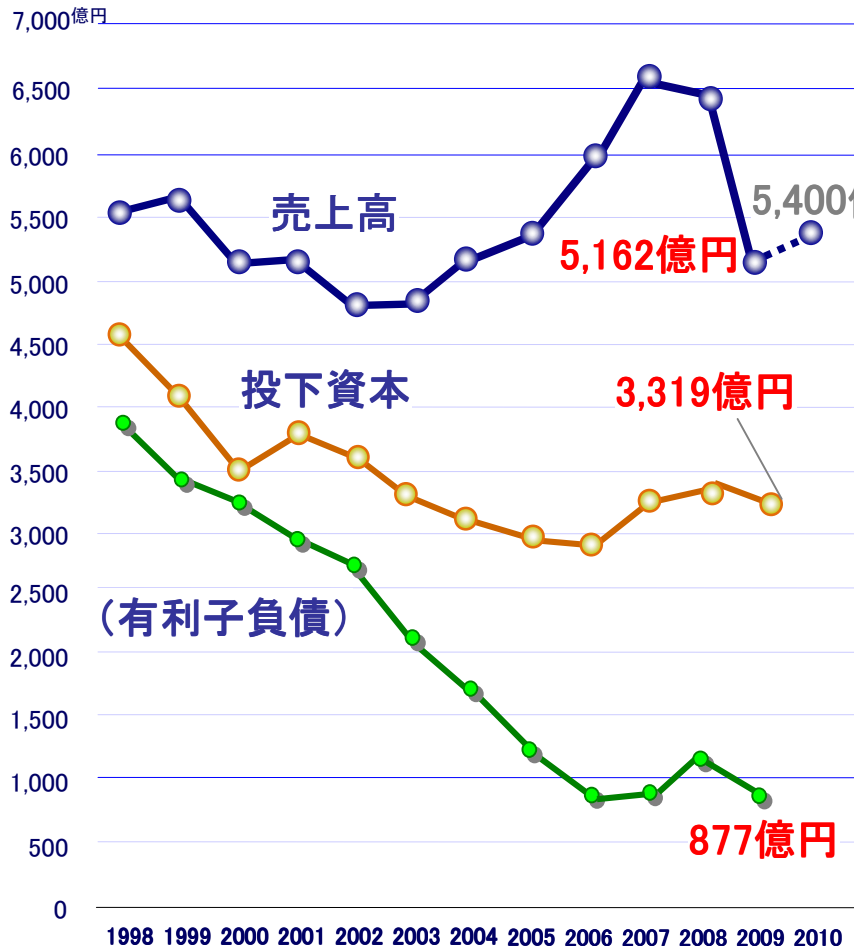
2009年度業績		
受注・売上は減少するも営業利益大幅改善		
	(5月計画)	(実績)
受注	4,500億円	⇒ 4,034億円
売上	5,300億円	⇒ 5,162億円
営業利益	140億円	⇒ 283億円

経営環境
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 先進国は最悪期を脱しつつあり、新興国は成長軌道に復帰 ✓ 標準・量産、建機事業は急速に回復しはじめている

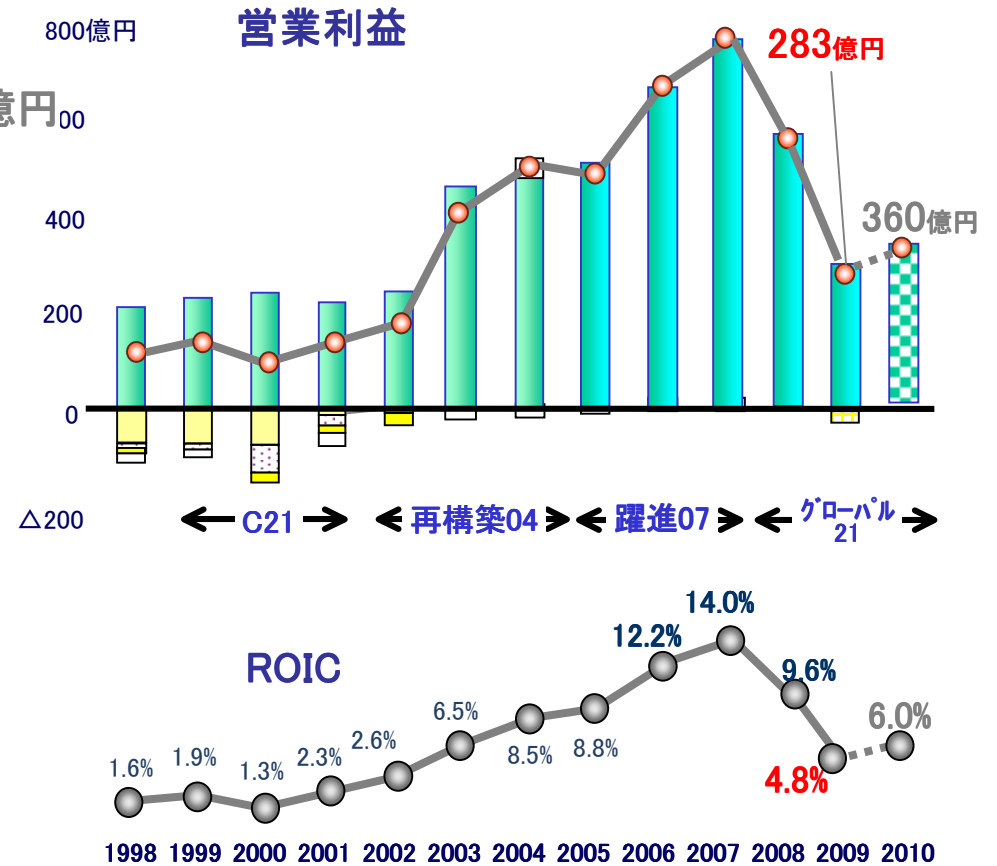
業績推移

09年度実績：売上高 5,162億円、営業利益 283億円と対前年比下回った
 10年度見通し：売上高 5,400億円、営業利益360億円と増収増益見込み

売上高・投下資本



営業利益・ROIC



経営規律と構造改革

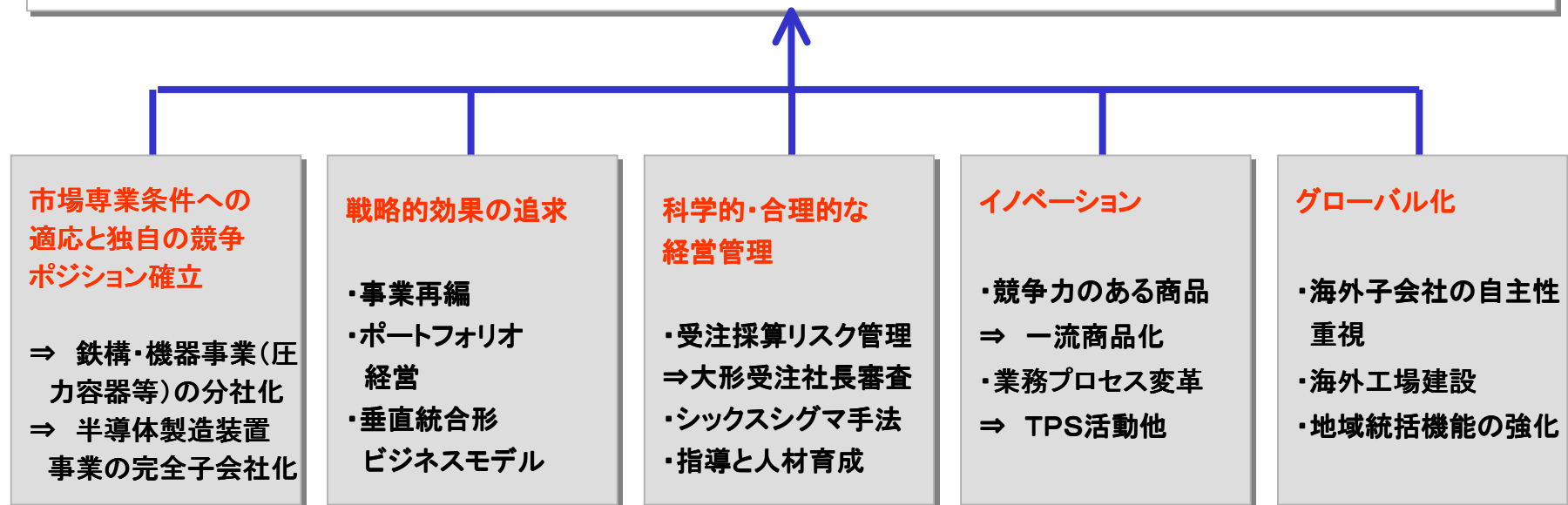
■ 経営の基本：「自立と連携」

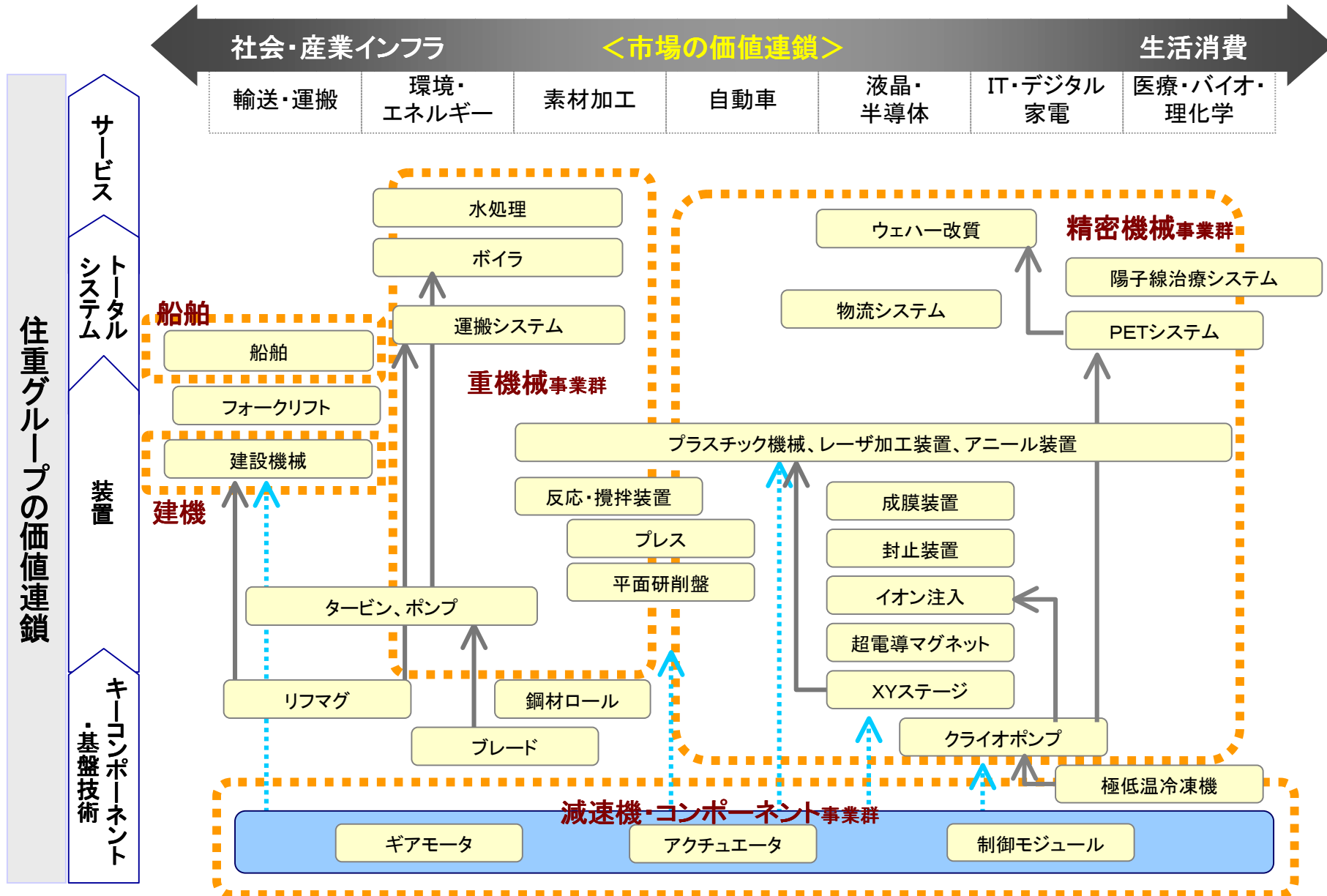
個々の事業部門、関係会社、機種の自立（自律）と連携（価値連鎖）

自立の前提： まず黒字であること

= 赤字事業は不可、赤字機種は不可、赤字受注は不可

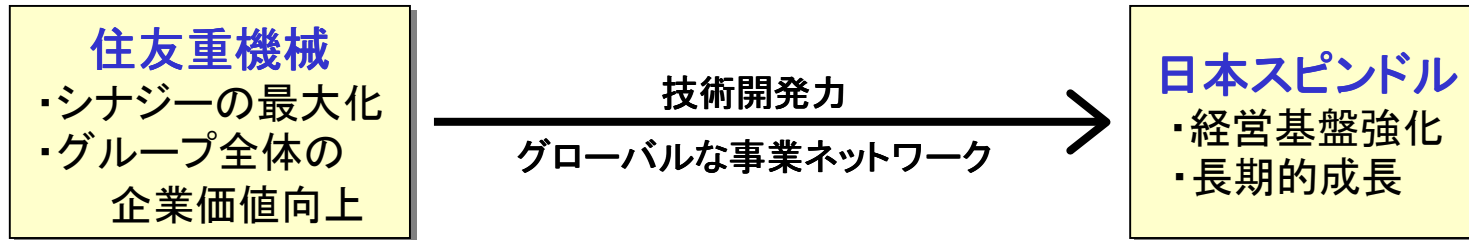
⇒ 「市況と競争に打ち勝つ」： 構造改革を推進





日本スピンドル製造株式会社 完全子会社化について

■ ポイント



■ 日本スピンドル製造株式会社 概要

所在地 兵庫県尼崎市潮江四丁目2番30号

代表者 代表取締役社長 齊藤 十内

事業内容 **産業機器** (スピニングマシン等回転塑性加工機、飲料・食品製造プラント、殺滅菌装置等)

環境機器 (各種集じん装置、ダイオキシン処理装置等)

空調機器 (クリーンルーム、精密温調システム、冷却塔、氷蓄熱システム等)

建材 (各種間仕切、福祉施設用引戸等) の製造・販売

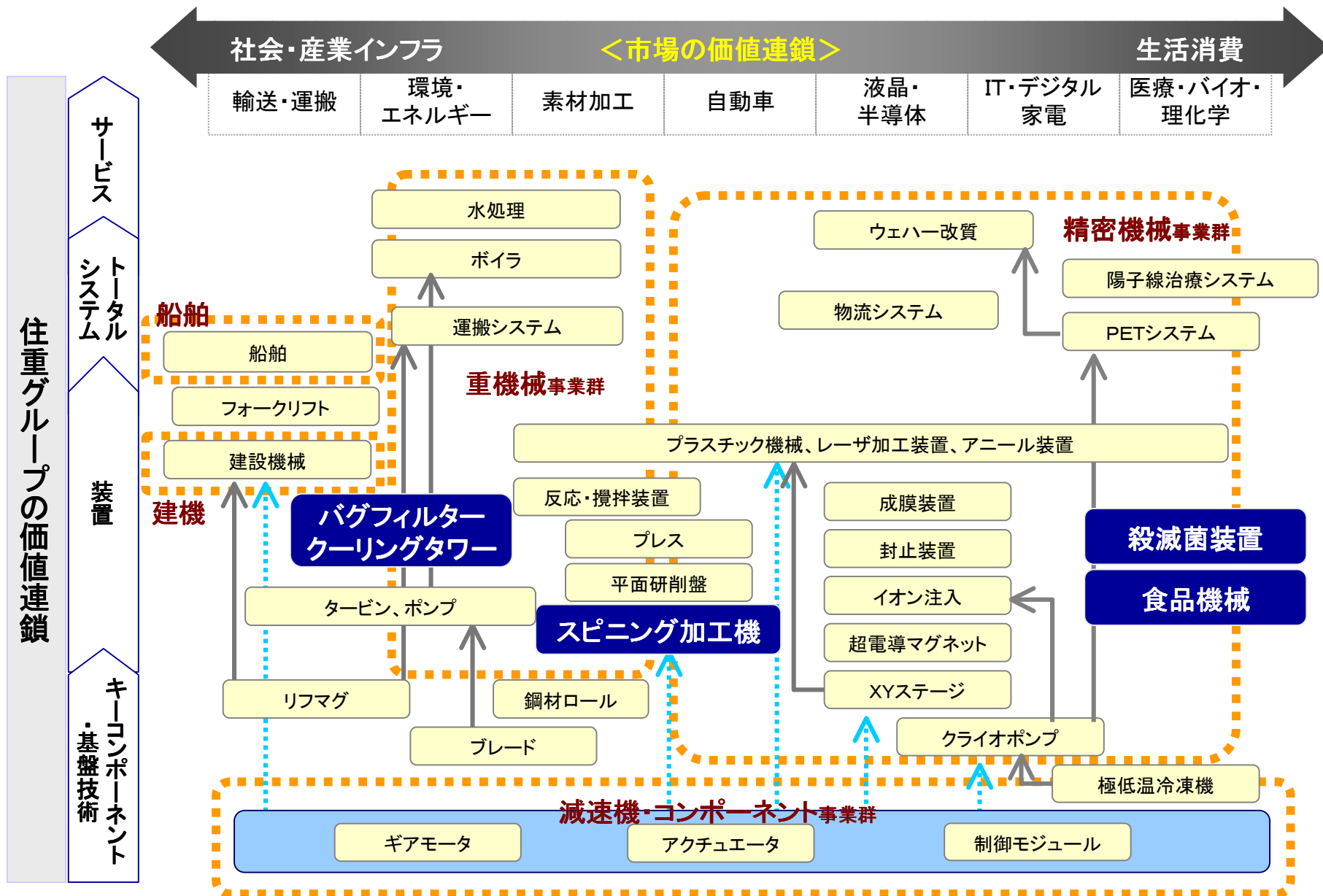
資本金 3,275百万円(平成22年3月31日現在)

設立年月日 昭和24年4月16日

従業員数 727名(連結)(平成22年3月31日現在)

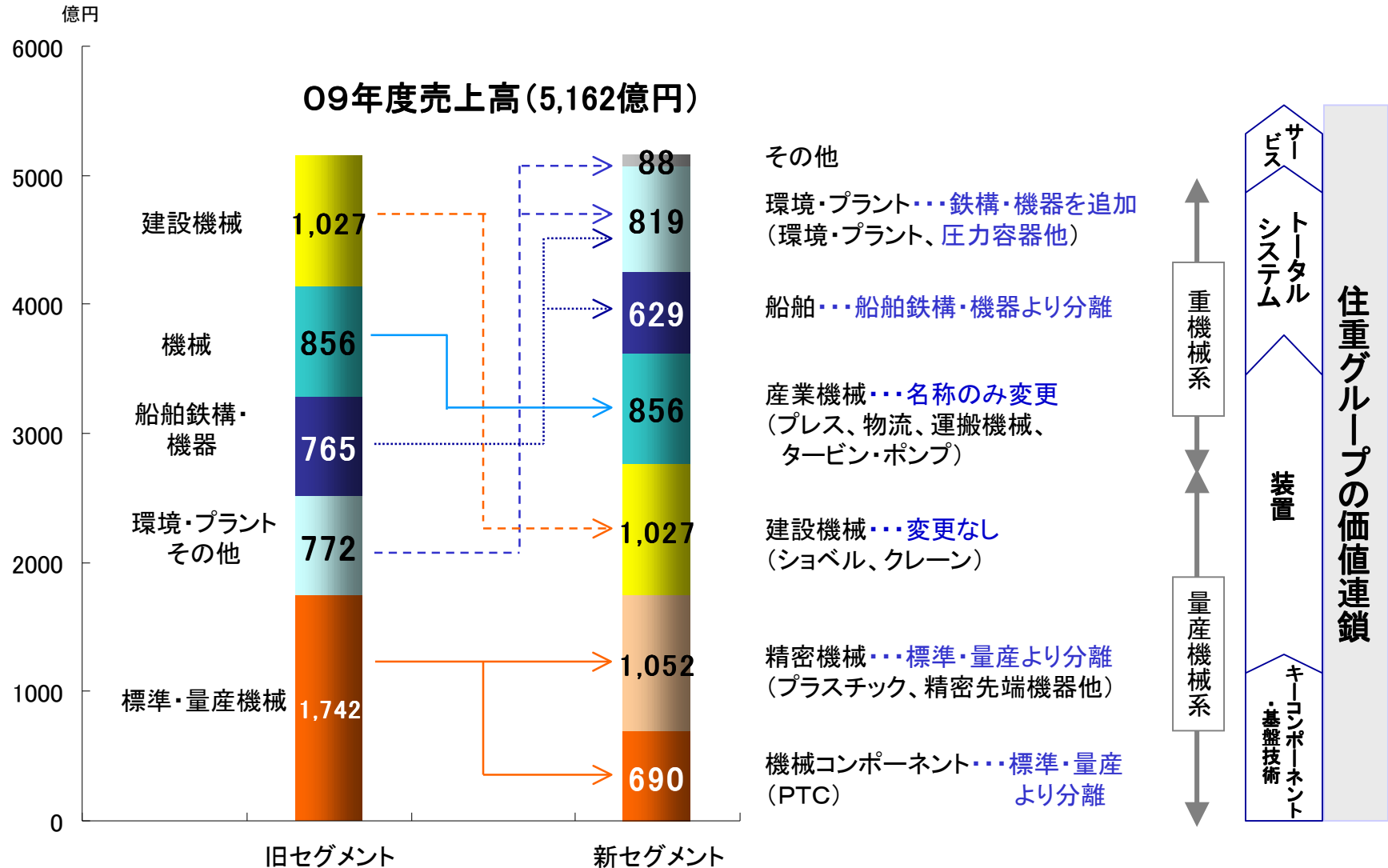
連結売上高 20,113百万円(平成22年3月期)

住友重機械グループと日本スピンドルの価値連鎖



セグメント情報開示の変更について

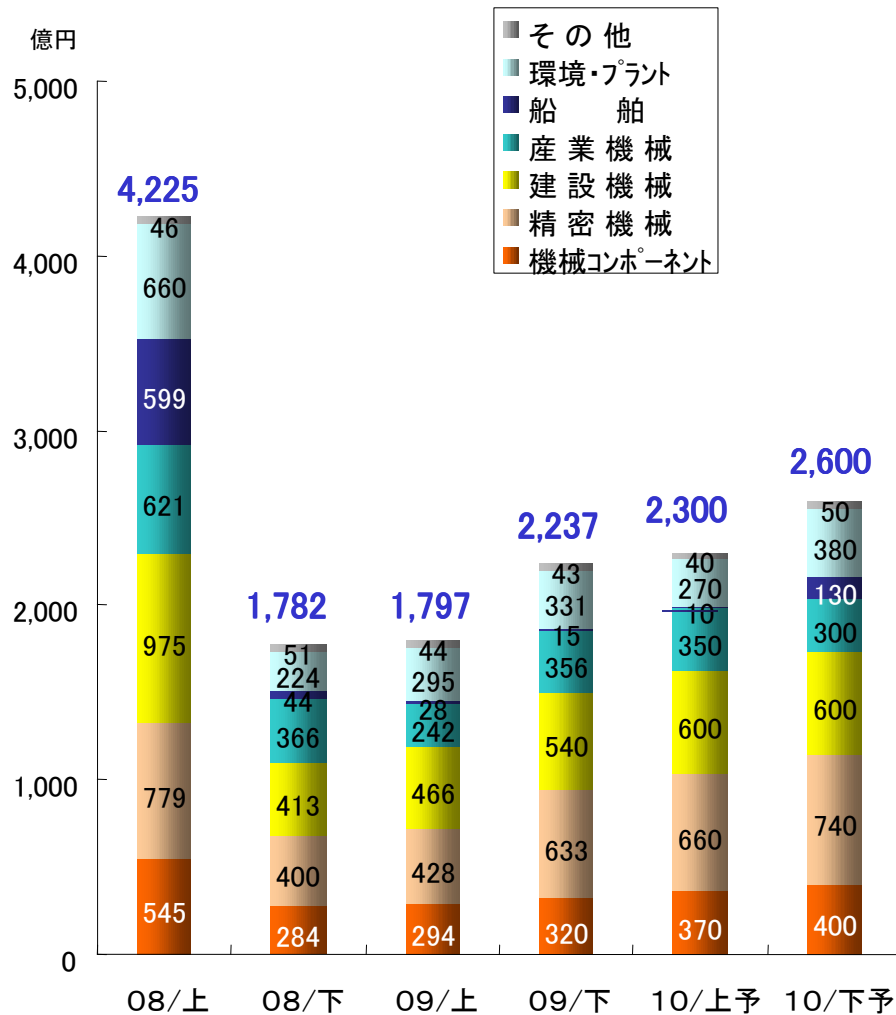
2010年4月より社内管理区分を変更しており、事業区分ならびに事業区分の名称を以下のとおり変更した。



新セグメントによる受注高・売上高推移

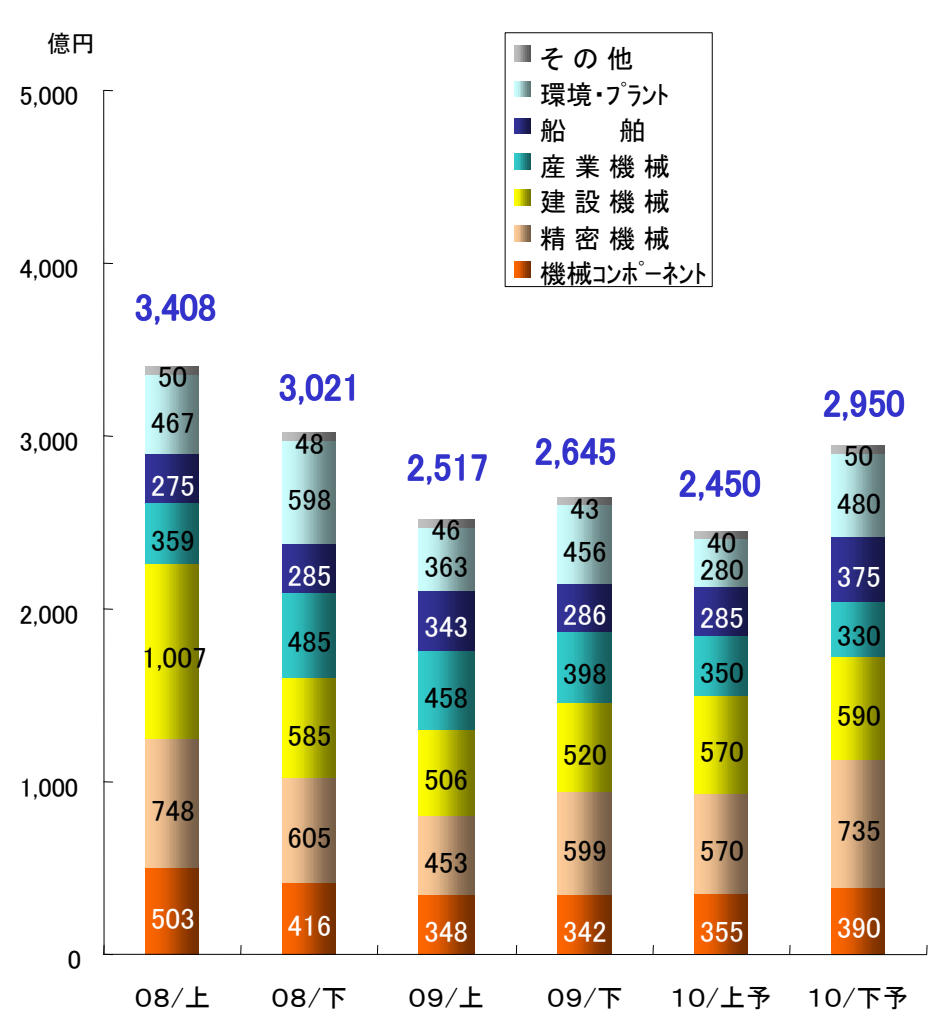
受注高

機械コンポーネント、精密、建機は08/下を底に回復基調。
船舶、重機械系は市況が回復せず低いレベルで推移。



売上高

機械コンポーネント、精密、建機は09/上を底に回復基調。
船舶、重機械系は受注残の消化により安定的に売上確保。



2010年度新セグメント別受注環境

- 標準・量産系は回復基調だが全体として依然低水準。
- 重機械系は大型案件のずれ込みもあり受注環境は依然厳しい。

単位:億円

新セグメント	受注環境	2010年度受注金額		
		上期予想	下期予想	通期予想
機械コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ・国内は設備過剰感が強く横這いで推移。 ・海外では欧米での回復は鈍いが、中国の高成長に牽引されアジアも大きく回復の見込み。環境・インフラ関連に加え、資源・エネルギー分野などにも動きが出てきた。 	370	400	770
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・射出成形機の国内需要は横這いだが、中国を中心とした北アジアが牽引し需要回復。引き合いが増加しているのは携帯、PC、ゲーム関連、家電など。欧米は緩やかにだが回復の兆し。 ・医療・液晶関連は海外でアジアを中心に堅調。 ・半導体は回復の見込み。 	660	740	1,400
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> ・油圧ショベルは中国、アジアで需要拡大。 ・モバイルクレーンは米国で厳しい市況が継続する見通し。 	600	600	1,200
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> ・タービンはインフラ関連、バイオマス発電が増加傾向。ポンプはEPC向け案件が活発。 ・クレーン、プレスは厳しい受注環境が継続。 	350	300	650
船舶	<ul style="list-style-type: none"> ・修理船は堅調だが、新造船は様子見の状態が継続。市況回復は夏以降か。 	10	130	140
環境・プラント	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラは、国内では厳しい受注環境が継続するも、東南アジアでは設備投資が見込まれる。 ・水処理は、民間水処理設備は引き続き厳しい見込み。 ・コークドラムは厳しい受注環境が継続。 	270	380	650
その他		40	50	90
合計		2,300	2,600	4,900

変減速機:

09年度:機械全般の市況低迷が続いたことから、
ほぼ全ての機種で受注、売上とも減少。

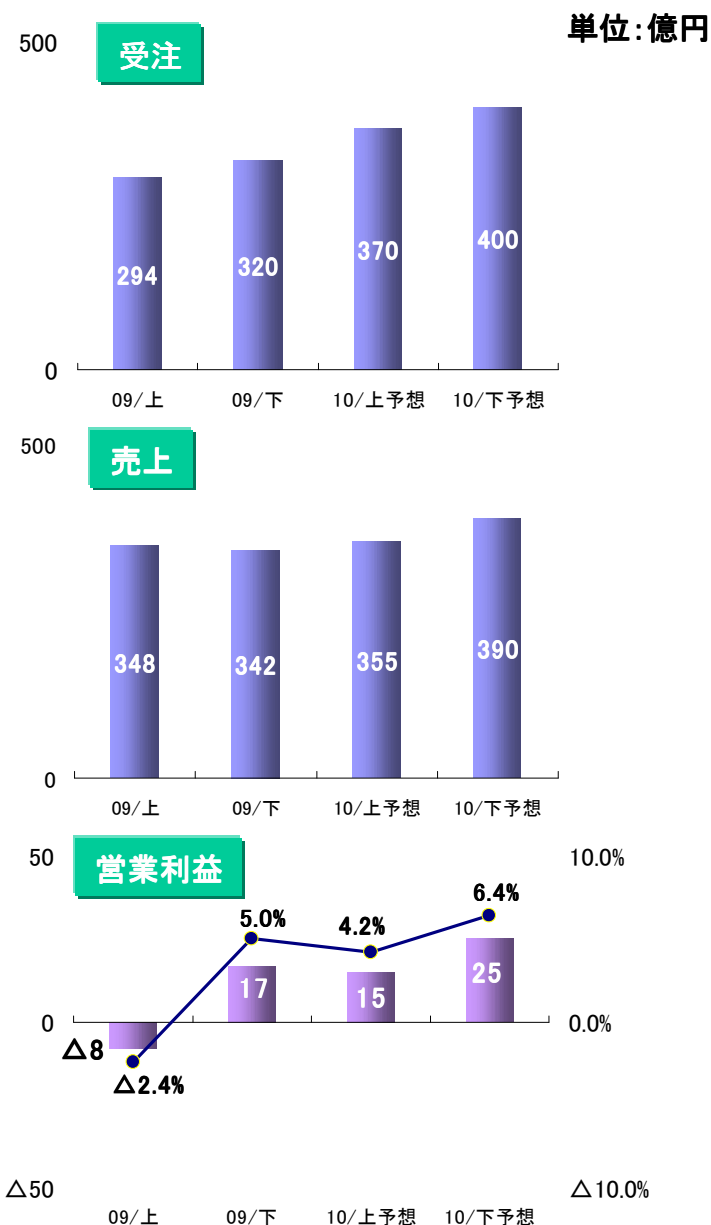
10年度:中国、東南アジアなど新興国の成長
市場を攻略する。
海外製造拠点の一層の強化を図る。



唐山減速機工場



大型減速機の組立風景



精密機械

プラスチック加工機械:

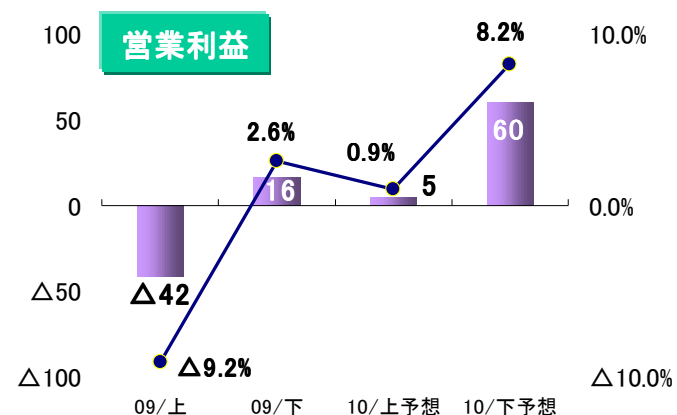
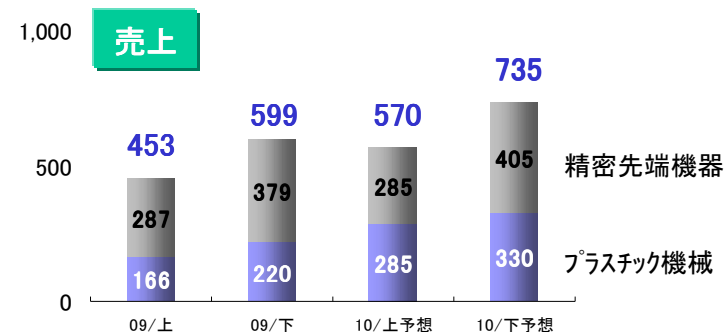
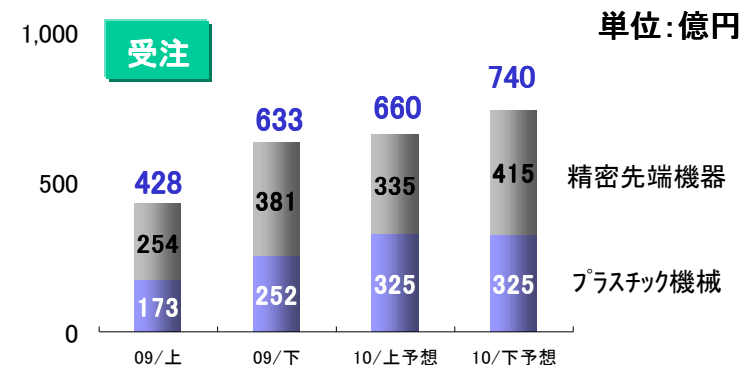
09年度:新興国向けを中心に回復基調にはあるものの、欧州事業の回復遅れもあり、全体として対前年度比受注、売上とも減少したが、09年度1Q以降回復。

10年度:中国、アジア等の新興国市場に注力。

精密先端機器:

09年度:半導体関連の悪化の影響もあり、受注、売上とも減少。

10年度:海外市場における医療関連の受注拡大に取り組む。半導体製造装置の海外展開を推進する。



建設機械

ショベル:

09年度: 需要は前年同期比で中国を除き大幅減。

唐山工場は順調に稼働。

10年度: 国内市況は厳しい状況で推移。

中国等新興国の旺盛な需要に対応。

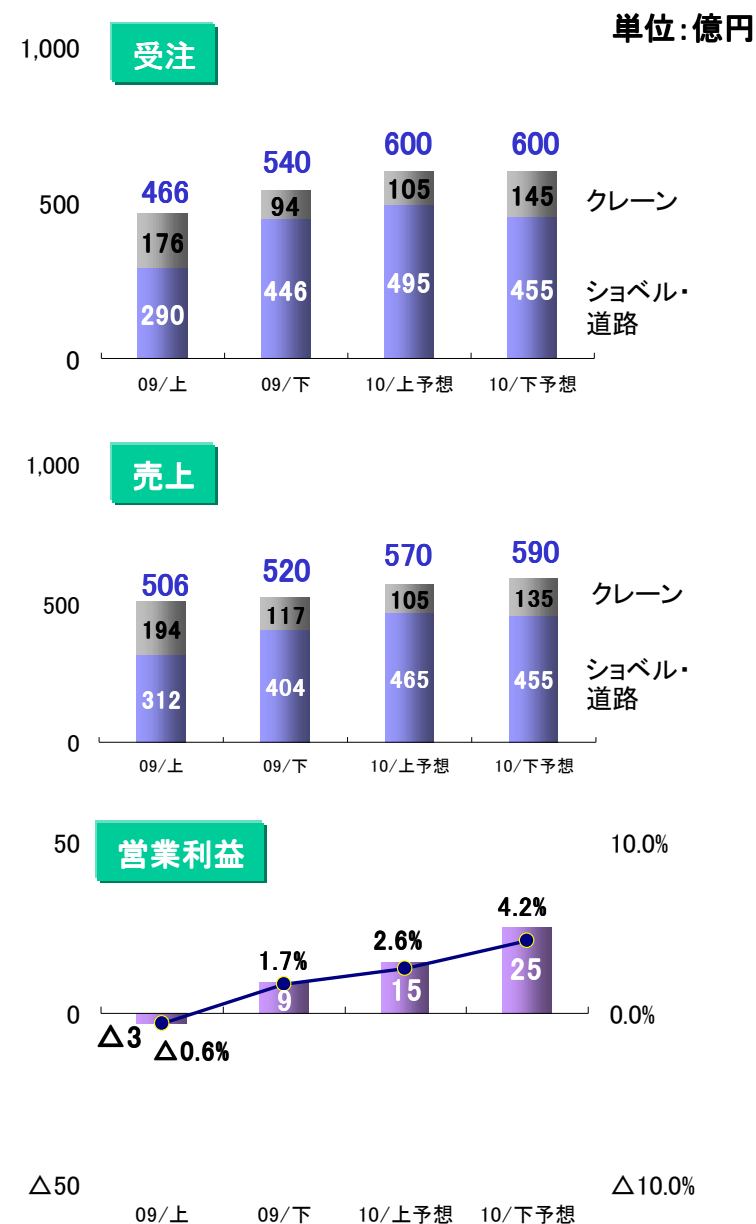
アセアン工場を建設し、東南アジア需要を取り込んでいく。

クレーン:

09年度: 北米市場でのインフラ整備などの需要が急激に落ち込み、受注は前年同期比半減した。

これに伴い、売上也減少した。

10年度: 受注は下期にやや回復を見込むも、低いレベルで推移。



インドネシア工場建設について

■ ポイント

- (1) アセアン地域への建設機械供給拠点として工場を建設する。
- (2) インドネシアはアセアン地域全体の建機市場の約半分を占め、今後ますます拡大が期待できる。
- (3) アセアン域内での生産によりコスト競争力を上げることで販売拡大が可能。
アセアン地域向けに年間1,000台規模の販売を目指す。

■ 会社概要

社名	PT. SUMITOMO S.H.I. CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA		
資本金	3,300万USDドル(日本円 約30億円)	住友重機械グループ100%出資	
設立	2010年7月予定	操業開始	2011年9月予定
敷地	約100,000㎡	従業員数	約200名
生産能力	油圧ショベル 年間1,000台 (12トン、21トン、24トン、35トンの4機種)		
設備投資額	約23.5億円 (土地、工場建物、加工・組立・塗装設備等)		
売上高	2012年度 約45億円	2013年度	約77億円



鍛造プレス・製鉄機械:

09年度:自動車業界の投資削減により受注は大幅に落ち込んだ。売上は受注残により堅調に推移。

10年度:受注に注力する。アフターマーケットの事業を強化する。

運搬機械:

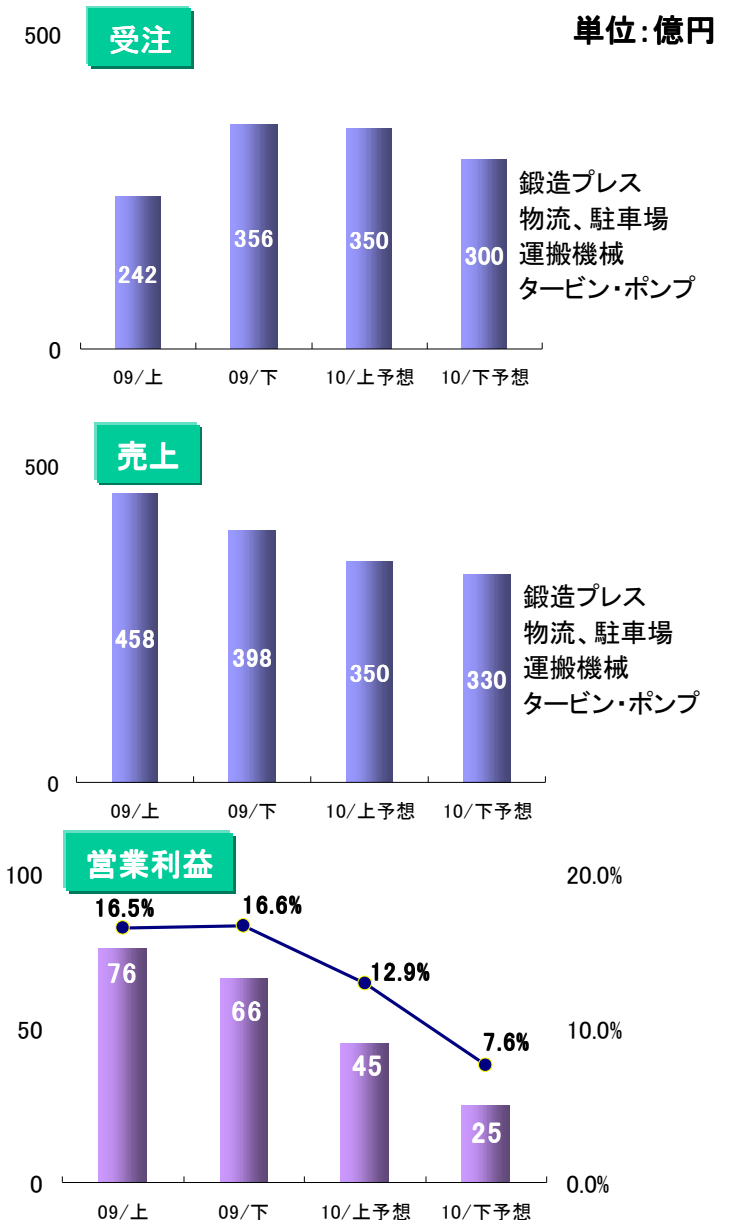
09年度:受注は造船、製鉄会社向け中心に減少するも、豊富な受注残により売上は増加。

10年度:国内電力会社向けと海外の製鉄業界向けの引合が増加しており、受注に向け営業を強化する。売上は受注残があるため堅調。

タービン・ポンプ:

09年度:新興国を中心としたバイオマス発電用タービンが回復基調にあるものの、資源・エネルギー関連顧客の設備投資が低調に推移したため、受注売上とも減少。

10年度:タービンは東南アジアでの営業強化により受注を確保する。ポンプはサービス活動の強化とEPCからの受注確保を目指す。



船舶

船舶:

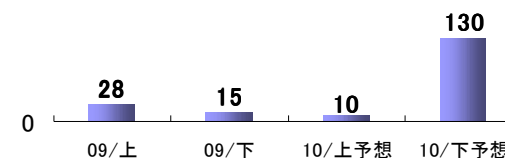
09年度:市況回復の兆しが見えず受注はゼロ。
売上は9隻と前期比1隻増。原材料高騰や
為替の影響で利益率が悪化。修理船につ
いては受注が堅調。

10年度:市況は依然として厳しいが動きはあり、
年度末に向けて受注を見込む。
売上は9隻を見込む。利益率は原材料高
騰の影響が和らぎ好転見込み。

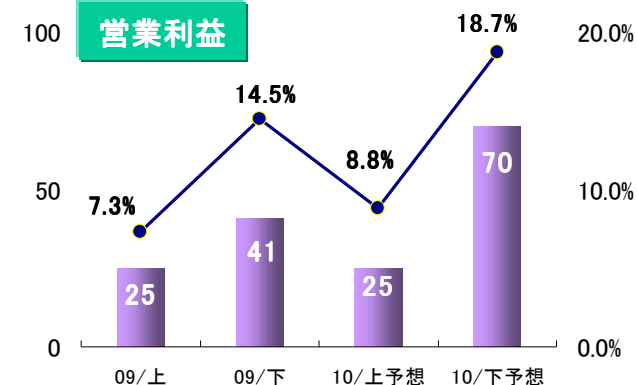
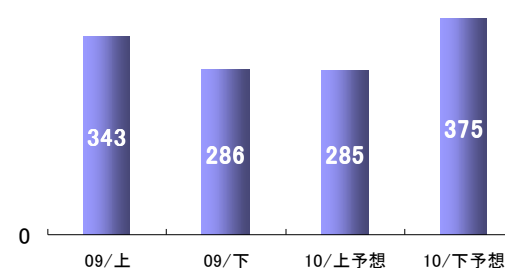


アフラマックスタンカー

500 **受注** 単位:億円



500 **売上**



環境・プラント

エネルギープラント:

09年度: 国内外の産業用発電ボイラが低調に推移したこと
から受注、売上とも減少。

10年度: 市況は依然として厳しいと見込むが、東南アジアで
の営業を強化し拡販を目指す。国内案件の深耕、小型ボ
イラの案件開拓により、受注拡大を目指す。

水処理プラント:

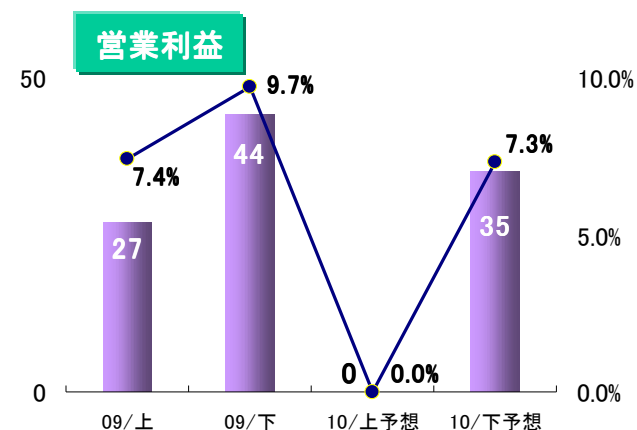
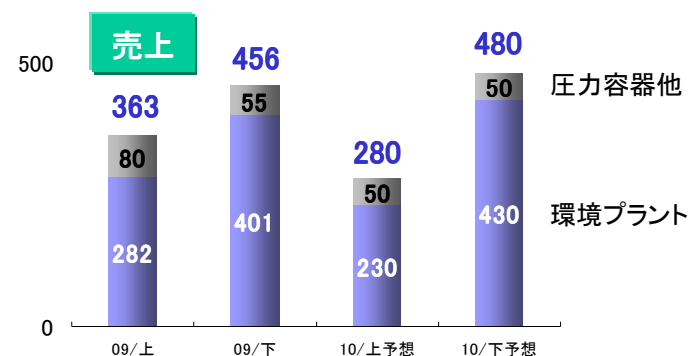
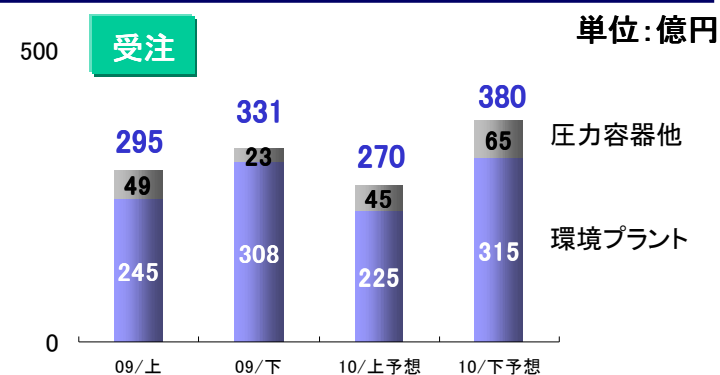
09年度: 官公庁向けの水処理設備が好調だったものの、民
間向けが低調で受注は減少したが、豊富な受注残により
売上は増加。

10年度: 民需案件の受注に注力する。また、ユニット機器の
開発・拡販を推進する。

圧力容器・攪拌槽他:

09年度: 石油精製プロジェクトが一部再開したが、受注・売
上とも低調に推移。原材料高騰や為替の影響あり。

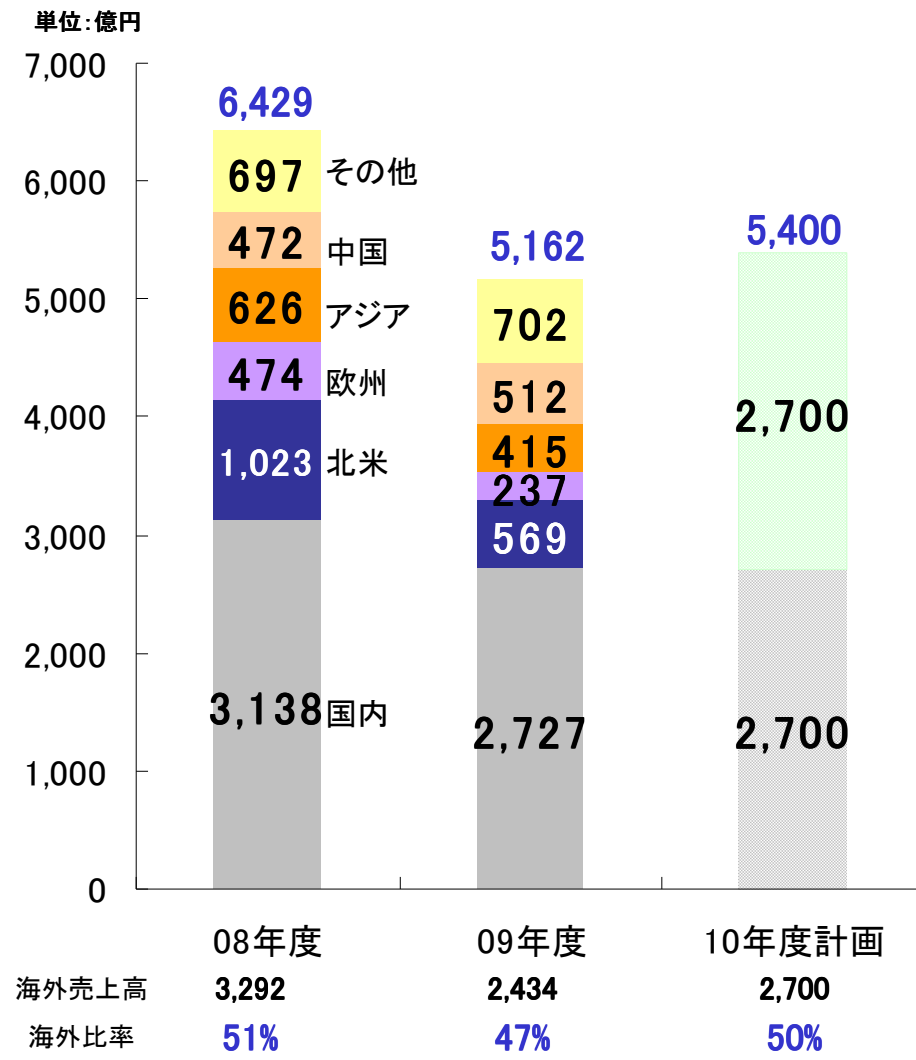
10年度: 客先の慎重な投資計画により厳しい状況が続く中、
受注確保を目指す。



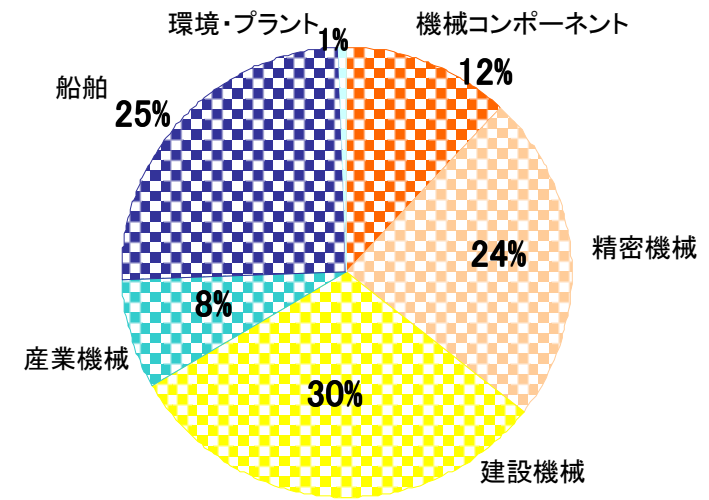
海外売上高

単位：億円

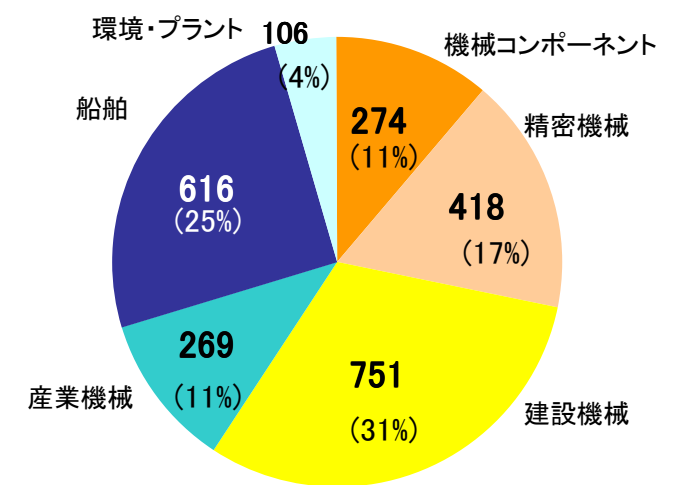
海外売上高推移



10年度 セグメント別海外売上(計画)



09年度 セグメント別海外売上高



経営方針

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位の
確立を求め、健全な事業の発展を目指す
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、
如何なるときにも堅実に収益を確保する
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を
バランス良く実践する

2010年度：
市場の立ち上がりを的確に捉えて
成長モードに舵を切る

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。